

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
【テーマA】教育改善・充実体制整備 最終評価結果

大学グループ名	秋田県立大学グループ
取組名称	産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成
取組テーマ	1 企業構造・地域課題を踏まえた教育内容の評価と改善 2 産業界と大学のニーズを踏まえたインターンシップの実施 3 早い段階から「将来目標」「社会・企業」を意識させる正課外の取組
取組担当者	秋田県立大学 総合科学教育研究センター准教授 渡部昌平
連携校名 (★幹事校)	室蘭工業大学、小樽商科大学、弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、 札幌市立大学、青森公立大学、岩手県立大学、★秋田県立大学、会津大学、 旭川大学、北翔大学、千歳科学技術大学、岩手県立大学宮古短期大学部、 岩手県立大学盛岡短期大学部、桜の聖母短期大学（計18校）

事業概要

本事業は「将来目標を具体的に持っていない」「地元を含め社会・企業を知らない」「学業(学生生活)と社会・未来がリンクしていない」「コミュニケーション能力・行動力等の不足」という課題を抱える学生に対し、大学側が講義やイベント等を通じて「役割経験・責任感」「違う層との接触」「振り返り」を提供することで、学生の目標設定が明確になり、積極性が増加した事業である。

産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成
～北海道・東北ブロックの取組～

学生の課題:「将来目標を具体的に持っていない」「地元を含め社会・企業を知らない」
「学業(学生生活)と社会・未来がリンクしていない」「コミュニケーション能力・行動力・思考力の不足」等

テーマ1:

企業構造・地域課題を踏まえた教育内容の評価と改善:産業界の視点を踏まえて「社会・企業が必要としていること」「社会・企業で今起きていること」等を教育の中で学生に提供し、学生の知識・スキル、態度・意欲の向上を図る。

テーマ2:

産業界と大学のニーズを踏まえたインターンシップの実施:産業界・大学双方のニーズを踏まえて、より効果的・効率的なインターンシップの在り方について実施・検討を進める。

テーマ3:

早い段階から「将来目標」「社会・企業」を意識させる正課外の取組:「正課教育やインターンシップ以外にも活用して「学業(学生生活)と社会・未来をリンクさせる」取組を進める。

全体会議(※毎年、北海道・東北で持ち回り開催:経済産業局、経済連合会、企業・団体等を招聘)

北海道地域グループ会議

室蘭工業大学、
小樽商科大学(地域リーダー校)、
札幌市立大学、旭川大学、
千歳科学技術大学、北翔大学

北東北地域グループ会議

弘前大学、岩手大学、秋田大学、
青森公立大学、岩手県立大学、
秋田県立大学(全体幹事校)、
宮古短期大学、盛岡短期大学

南東北地域グループ会議

山形大学(地域リーダー校)、会津大学、
桜の聖母短期大学

各大学の成果・課題の共有

役割経験・責任を持たせて「違う層との接触」「振り返り」を行うことで、
学生は未来を自分のこととして考え、目標が明確化し、積極性が増加

最終評価結果<総合評価> B

《コメント》

全体会議、地域グループ会議を積み重ね、実質的な連携をより強める努力を継続的に行うとともに、3年間かけて全ての県を巡回して企業の意見を聴取する等、地域間格差の是正にも積極的に取り組んだことは評価できる。また、地理的に広範囲にわたるグループであるが、幹事校のリーダーシップのもと、連携大学間の授業視察や、グループ外の先進的な取組視察などを展開し精力的にグループ内外の情報を収集し、成果物(Tips集)を作成、共有した点も高く評価できる。

一方で、取組テーマの達成目標の検討の際は、事前に達成手段、達成の可能性等を具体的に検討する必要があったと考える。達成目標やそれに対する評価基準があいまいであることから、グループ全体としての事業の成果が明確に可視化出来ていない点に課題が見られた。また、幹事校と先進的な地域のリーダー校が全体会議や地域グループ会議をまとめ、グループの体制整備に尽力したことは認められるが、大学間で差があり、グループ全体としての取組の継続と体制の強化には改善の余地がある。